

パターン 22 - ① Beatles コード I (モード⇔ブルース)

Verse (テーマ) & Ending (終止)

Bridge (展開部)

メモ

①ポールのブルース・ロックと解釈、なぜビートルズ・コードか？

⇒| A | C | D | F・G | をC調に移調すると | C | E♭ | F | A♭・B♭ | となり、多くの non-diatonic chords が登場するが、これらのパターンは、Beatles の曲で多用された。

前半のA→C (C→E♭) は、“Magical Mystery Tour”、“SGT. Pepper’ s LHCB”、“Back In The USSR”、後半のF→G (A♭→B♭) は、“Lady Madonna” や “Hello Goodbye” の一部

比較的近年でなじみ深いのは、“渚のシンドバット(ピンクレディ)” のイントロ(ア〜ア・ア・アン)がこの進行

② | F・G | は | A | にも代用可、ブリギヤブルースなどのノリが似合う(全コードに7th を付けても良し)

③なぜ、モード⇔ブルースか？(エオリアン・モードとの関連性)

⇒エオリアン・モード(ラ開始白鍵盤;ラ・シド・レ・ミ・ファ・ソ)をド開始に移調すると、ド・レ・ミ♭・ファソ・ラ♭・シ♭、というモード(音階)が現れる。ABC表記にすると、C・D・E♭・F・G・A♭・B♭となり、Verse 部をC調に移調したコードのルート音が浮かび上がる。全体をAメジャー調にしたのは、ブルースのマイナーペンタ+ミ♭(ラ・ド・レ・ミ♭・ソ)での即興が合わせやすいため(メジャーとマイナーを意図的にぶつけている→ド&ド♯の混在)。当パターンは、モード、ブルース、メジャー、マイナー、4要素の境界にある

〈こんなパターンもある〜 | Am | F | G | C・Em | のトニックAmのマイナー抜き(=A)が新鮮〉

Beatles から派生したモード⇔ブルース、パターンをYMO (Behind The Mask ; 1 段目, 1979) を経由して、サザンオールスターズ (Miss Brand-New Day ; 2&3 段目, 1984) は、下記の如く解釈したのではなかろうか？

⇒当パターン of Verse を | A | F | G | C・Em | に置き換え、セッションで使用しても良